

センターだより

地域と共に未来に輝く センターを目指して

公益社団法人大分市シルバー人材センター（大分県） システム・広報班主任 森永 徹



大分市の概要

「おんせん県おおいた」でおなじみの大分県の県都・大分市は、九州の東端、東九州軸の北部、瀬戸内海の西端に位置し、九州でも有数の広い市域を有しています。

昭和39年、新産業都市に指定され、以来、鉄鋼、石油化学、銅の精錬など重化学工業を中心に東九州の拠点都市として発展を続けています。

高崎山をはじめとした山々や、1級河川である大野川と大分川、天然の良港となっているリアス式海岸と、海、山、川の全てがそろった自然と都市が共存する豊かな

環境を有しています。

おかげさまで40周年

大分市SCは、昭和59年に設立され、平成24年の公益法人化を経て、令和6年には設立40周年を迎えました。

設立当初の会員数262人、契約金額471万円から、令和5年度には会員数1610人、契約金額約7億円（労働者派遣事業を含む）となり、大きく発展しました。

これまでの活動を振り返り、これからのさらなる発展を祈念して令和6年11月12日にJ・COMホルトホール大分にて「設立40周年記念式典」を執り行いました。

式典に先立って、10時からエントランスホールで行った「手作り品展示・即売会」では、会員が作った洋服、木工製品、手芸品、小物、ミニサボテンなどが販売され、商品を買求める客でにぎわいました。併せて、シルボンヌ委員会も出展し、「ペーパークラフト教室」で作ったバッグや籠、リースなどを展示して、女性会員の拡大などの普及啓発に努めました。

引き続き14時から大ホールで、多くの会員の参加の下、記念式典を開催しました。理事長のあいさつに続いて、大分市長と大分市議会副議長からは祝辞を、全シ協会長からはお祝いのメッセージをい

いただきました。

次に、これまでセンターの活動に大きく貢献してくれた企業には感謝状を、歴代理事長や10年以上役員を務めた人、在籍20年以上の会員には表彰状を贈呈しました。そして、受賞者代表のあいさつをもって式典は終了しました。

式典終了後は「お楽しみ抽選会」を行い、当選者決定で会場の熱気が冷めやらぬうちに、アトラクションとして、地元で活躍する音楽



設立40周年記念事業における「手作り品展示・即売会」の様子



令和6年11月12日、J:COM ホルトホール大分にて「設立40周年記念式典」を開催した

グループ「ディアフレンズ」によるコンサートを開催。メンバーがシルバー世代とあつて、「神田川」や「なごり雪」のほか「グループサウンズメドレー」など来場者におなじみの曲が披露され、ステージと客席が一体となって大いに盛り上がりました。

18時からは会場を移して、受賞者と関係者で祝賀会を開催。こうして、設立40周年記念事業は無事に終了しました。

シルボンヌ委員会の設置

今後ますます需要が増加すると思われる福祉・家事援助サービス事業のための体制整備などが必要なことから、センターでは第2次中期計画に「女性会員の拡大」を掲げました。令和6年3月5日には、女性会員の拡大と就業開拓を行うことを目的として、シルボンヌ委員会（女性委員会）を設置しました。目的達成に向けて、委員



シルボンヌ委員会としての取り組みの第1弾となった「ペーパークラフト教室」には、12人が参加した

清掃等のボランティア活動を通して地域に貢献することは、センターの理念の一つです。例年夏に行われる「ななせの火群まつり」と「本場鶴崎踊大会」では、イベントを盛り上げるため、開会式に参加するとともに、ボランティア清掃を実施しています。

また、毎年10月のシルバー人材センター事業普及啓発促進月間には、多くの市民が利用する大分県南口にある「大分いいの道」の

ボランティア清掃で地域貢献

や女性会員同士の交流の場として、また、講師の育成と就業につなげるための機会として会員から講師を募集し、「ペーパークラフト教室」「編み物教室」「リースづくり教室」「紙ひな人形教室」などの多彩なイベントを開催しています。

今後、女性会員を中心に市民も参加しやすいイベント等を企画し、会員拡大や就業につながる取り組みを進めていきます。



夏の恒例イベント「ななせの火群まつり」の開会式に参加したメンバー

未来に向かって地域に期待される存在に

芝生広場のボランティア清掃を行うほか、シルバー事業の普及啓発に努めています。

当センターでは、設立50周年に向かつて、これからも一步一步着実に前進し、地域から頼られ、喜んでもらえる「まちのシルバー人材センター」を目指していきます。